

授業概要

子どもを取り巻く環境や、子どもと環境の関わりについて、感性・知識・技能を身に付けることを目標として講義する。子どもが主体的に環境に関わることを考え、人的環境でもある保育者の役割について考える。子どもたちにとって身近な環境から、地域社会や地球規模の課題に至るまで、様々なスケールでの子どもと環境のかかわりを考えていく。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業のねらい、到達目標、評価等についてのガイダンス）
第 2 回	領域「環境」のねらいと内容及び内容の取り扱い
第 3 回	身近な環境とのかかわりと感性の育ち① 「感じる」経験の重要性
第 4 回	身近な環境とのかかわりと感性の育ち② 子どもの学びの深まりと保育者のかかわり
第 5 回	自然とのかかわりを通して生まれる育ちと学び① 自然経験、センス・オブ・ワンダー
第 6 回	自然とのかかわりを通して生まれる育ちと学び② 子どもの視点から身近な自然に触れる
第 7 回	モノとのかかわりを通して生まれる育ちと学び① レッジョ・エミリア・アプローチ
第 8 回	モノとのかかわりを通して生まれる育ちと学び② 身近なモノと遊び
第 9 回	モノとのかかわりを通して生まれる育ちと学び③ モノとのかかわりと探究活動
第 10 回	乳児の環境とのかかわり方の特徴と環境構成
第 11 回	幼児の探究と小学校以降の「科学」との繋がり
第 12 回	子どもの身の回りの様々な施設
第 13 回	地域・地域行事と保育のかかわり
第 14 回	環境に関する現代的課題と地球環境へのまなざし SDGs と保育
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・子どもと環境のかかわりの重要性を多角的に理解できる。
- ・人的環境である保育者の専門性や環境構成のあり方について理解できる。
- ・地域社会や世界的な課題から子どもと環境について考えることができる。

履修上の注意

授業では、適宜、視聴覚教材を使用したりグループワークを実施したりすることで、体系的に学んでいく。一部、学外での体験的学習を行う。積極的に授業に参加すること。教科書や資料を常に持参すること。

予習・復習

- ・予習：教科書の該当テーマに関連するページを通読し、疑問点やコメントを記す。わからない単語や概念については文献やインターネット等で確認しておく。
- ・復習：ノートや資料を読み直し、学んだ点と疑問点をまとめることで理解を深める。

評価方法

・受講態度（20%）、課題への取り組み（30%）、筆記試験（50%）で評価を行い、総合評価 51 点以上を合格点とする。

テキスト

- ・教科書名：0-5 歳児 子どもの「やりたい！」が発揮される保育環境 主体的・対話的で深い学びへと誘う
- ・著 者 名：宮里暁美（監修）
- ・出版社名：Gakken 保育 Books
- ・出 版 年（ISBN）：978-4058008768